

寺と庭

※題字／森川芳聲



歌碑のこころ

あめつち

天地の

共に久しく

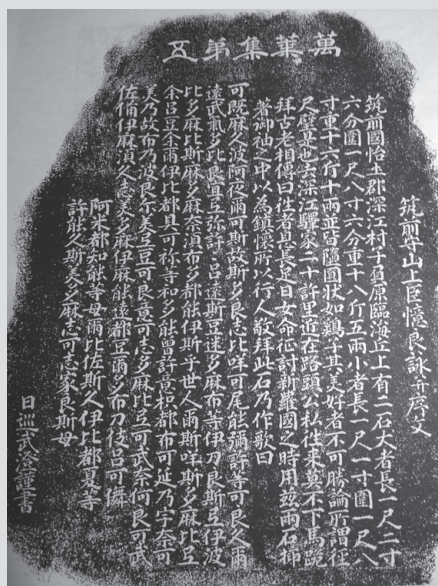
言ひ継げと

この奇御魂くしみたま

敷かしけらしも

天地と共に長くいつまでも語り継ぎなさいと、この不思議な神霊はここに鎮座なさったのであろう。

※詳しい解説は12頁に掲載しています



萬葉歌碑 拓本



糸島市二条深江・鎮懐石八幡宮境内／萬葉歌碑

もくじ

- 2 巻頭言 真の国難—今こそ国防意識を… 山口 秀範
- 3 「社中」だより …… 今野 大輔
- 4 「偉人レポート」 …… 日下部晃志
- 6 昨今の教育事情雑感② …… 坂口 秀俊
- 7 ミヤンマーと日本⑦ …… 守田 剛
- 8 追悼石村善悟君(第二弾) …… (山口 秀範)
- 9 伊達政宗「馬上少年過ぐ」をめぐって⑤ …… 廣木 寧
- 10 TERA KOYAふおとればーと
- 11 “あちこちde寺子屋”のご案内
- 12 歌碑のこころ(12) 編集余録 余録の余録

真の国難 —今こそ国防意識を—

代表世話役 山口 秀範

正論の山田氏オビニオン

一ヶ月余り続いた緊急事態宣言が全国三十九県で解除され、残る東京、大阪などの進展が待たれる五月二十二日、「尖閣諸島守る緊急事態の宣言を」と題する山田吉彦（東海大学教授）氏の正論が産経新聞に掲載されました。「中国は、全世界で対応に迫られる新型コロナウィルス禍を利用し、アジアの海洋支配に向けて大きく動き出した。その目標を達成するために、尖閣諸島を奪取しようとしているのである」との書き出しで、最近の領海侵犯の状況や、沖縄漁民が受けている身の危険に言及しています。そして日米分断を狙って着々と布石を打ちつつある中国へ、日本政府の早急かつ具体的な対応を求めています。

感染防止と生活の自粛に国民の意識が縮こまっている時、間隙を縫って世界制覇の野望を隠さない中国の動きに警鐘を鳴らし、相変わらず危機感が希薄な日本政府と国民の覚醒を促す、秀逸な論評と何度も読み返しました。

国民に見え難い政府の外交
中国の尖閣諸島への意思は明白で、我

が国が領有して来た歴史的経緯などを一切無視して、新たな実効支配に向けてあらゆる手段を積み重ねつつあります。然るに今回のウィルス災禍によって延期されたとはいえ、習近平主席を国賓招聘する政府方針は堅持されたままです。我が国の国境を侵そうとする隣国元首を国賓として迎える意義は中々理解し難いところです。

国際ルールを無視して膨張する中国に世界の懸念が広がる中で、日本の厚遇は逆風の流れを変える大きな要因に違いありません。それでも手を差し伸べるとすれば、逆に我が国に余程の弱みがあるのではないかと憶測したくなります。

そして六月十五日、河野防衛大臣はイージスアショア配備計画を停止すると発表しました。迎撃ミサイルのブースターが市街地に落下する虞を除去できないのが断念の根拠だそうです。これも俄かに信じ難い。危険回避の方策は色々考えられましょうし、ミサイルの発射は他国からの攻撃を水際で止める国家非常事態で、残骸落下の危険と次元の違う問題ではないでしょうか。もし発表の通りとしても、それならば当然代替案を同時に

公表すべきではありませんか。事は国防衛の根幹に係る事柄です。

ここでも、真因は近隣強国——ロシア、中国——に対する遠慮が働いたのではない。それ程隣国に気を遣う理由が別にあるのではないかと日本の弱点に疑念を抱きたくなります。勿論外交や防衛に国家の機密を伴うことは百も承知のつもりです。それにしても、国家のエゴがぶつかり合う世界の現状、パンデミックさえも国力伸張に利用しようとする暗闘に対して国民の認識を改めさせ、自国は自力で護るという覚悟を固めることは、安倍首相にしか出来ないリーダーシップと期待を寄せるものです。

平和を守るために

足を引っ張るだけの野党、どこの国益を擁護しているのか判然としないマスコミに囲まれて、総理のご苦勞は察するに余りありますが、正に国家緊急事態の打開に向けて良識勢力結集の秋です。

『孫子』の中に「勝つ可からざるは己に在り、勝つ可きは敵に在り」とあります。「敵の齒が立たない強固な態勢は自分自身で作り上げるもの、味方の勝利は敵の杜撰な準備が作り出す」と解釈されましょう。他国が容易に手を出せない防備を急ぐことが、日本の平和を維持する最大の方策です。そして憲法改正もその一つです。「杜撰な準備」と敵国がつけ入る隙を与えない国作りこそ喫緊の課題と心得べきでしょう。

快適空間の未来を築く。

KANSAI
HOLDINGS

株式会社 **カンサイホールディングス**

〒812-0007 福岡市博多区東比恵 3-32-15 TEL 092-481-9101
<http://www.kansaihd.co.jp/>